

生薬ニュース

近畿大学東洋医学研究所附属診療所調剤室

ショウキョウとは・・・

ショウガ : *Zingiber officinale* Roscoe(ショウガ科)の根茎で、熱帯アジア(インドからマレー半島)が原産国とされていますが、世界中の熱帯～温帯で広く栽培されています。日本でも温暖な地域で野菜として栽培されています。

胃腸を温め、制吐、健胃などの作用があります。

【性味】辛・微温 【薬効】辛温解表、温中止嘔、解毒

カンキョウとは・・・

カンキョウ(乾姜)とは**ショウキョウ**と同じショウガですが、この根茎を乾燥させるだけでなく、湯通しまたは蒸す、という過程を加えたもので、薬効として補陽散寒、回陽救逆、温肺化痰と**ショウキョウ**よりさらに温中効果(胃腸を温める効果)に優れています。またこの**カンキョウ**という生薬は、日本独特の加工方法で、中国では使用されておらず、このショウガのことを『三河乾姜』と記す書もあります。

湯通しや蒸すなどの加工の後乾燥させることで、下の写真のように厚みが薄く、また硬くなり、色もこのニュースの枠線のように淡黄褐色から茶褐色に変化します。



← 掘りたてのショウキョウ



← カンキョウ
加熱しているため水分は抜けている。

今月のピックアップ

しょうきょう
生姜



ショウキョウの成分と薬理作用・・・

ショウキョウの主な含有成分は、6-ジンゲロール、8-,10-ジンゲロール、デヒドロジンゲロールなどの辛味成分(0.6%～1.0%)です。加熱処理を施された**カンキョウ**では、6-ショウガオールやジンゲロンを生じます。

薬理作用としては、制吐作用、胃液などの消化液の分泌現象、抗胃潰瘍作用などが報告されています。

6-ジンゲロールと6-ショウガオールは類似する薬理作用を有しますが、後者の方が特に鎮痛、鎮咳作用が強いことが知られています。

ショウキョウと**カンキョウ**の違いは次ページで詳しくお話します。

ショウキョウとカンキョウを比較・・・

中国と日本では**ショウキョウ**の呼び方が少し違います。中国では、生のヒネ生姜（ショウガ）を**生姜（ショウキョウ）**として、解表・止嘔（感冒などの症状）に使用します。このヒネ生姜の乾燥品のことを**乾姜**と呼びます。しかし、日本では、この乾燥品のことを**生姜**、さらに、蒸し工程を加えてから乾燥させたものを**乾姜**と呼びます。薬用のショウガとしては、辛味の強いものが良品とされており、わが国では『金時生姜』がこれに相当します。**カンキョウ**は加工することで、保存しやすく、また辛味もマイルドになります。**カンキョウ**は実は中国では流通されておらず、この味の変化も理由の一つと考えられます。

基原・製法	中国	日本
生のヒネ生姜	生姜	（鮮姜）
ヒネ生姜乾燥品	乾姜	生姜
ヒネ生姜を蒸して乾燥	流通せず	乾姜

効能は、**ショウキョウ**が辛温解表（発汗作用など）や温中止嘔（悪心嘔吐）、化痰燥湿（痰を出しやすくする）を持つのに対し、**カンキョウ**は類似していますが、補陽散寒、回陽救逆、温肺化痰（循環を良くして体を温め、痰の生成を抑制する）など、若干違うことも分かります。加工することで、効能が変化する面白い例ですね。

カンキョウを含む方剤・・・

だいけんちゅうとう
大建中湯

（腹が冷えて痛み、腹部膨満感のあるもの）

はんげしゃしんとう
半夏瀉心湯

（みぞおちにつかえがあり、軟便又は下痢傾向のもの、胃腸型カタル、消化不良など）



ショウキョウを含む方剤・・・

かっこんとう
葛根湯

（頭痛、発熱、悪寒、肩こり）

じゅうぜんたいほとう
十全大補湯

（体力低下、疲労倦怠、食欲不振、手足の冷え）

はんげこうぼくとう
半夏厚朴湯

（気分がふさいで、咽喉に異物感があるものの不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳、しわがれ声）

りっくんしとう
六君子湯

（胃腸の弱いもので、食欲がなくみぞおちの付けなどがあるものの胃炎、消化不良、食欲不振、嘔吐など）

ショウキョウ・カンキョウ両剤を含む方剤・・・

はんげびやくじゅつてん まとう

半夏白朮天麻湯（胃腸虚弱で下肢が冷え、めまい、頭痛、頭重などがあるもの）